

## 9/28 大刀洗校区 地域がつながる情報交換会 ワークまとめ

	28水
高橋	○土地が高くなっているため水は入らなかった。おにぎりや炊き出しを舟で鶴木や下高橋に持って行った。
上高橋	○水が入り、大海原のようになっていた。 ○水が入ってきたときは雨は降っていなかった。あっという間に水が入って、白波がたっていた。必死で麦をつし（屋根裏の物置きのようなところ）へあげた。 ○どうやって元の生活に戻ったかは覚えていない。 ○筑後川はここ200～300年の間に200回ほど氾濫を起こしているため、助け合う体制ができたのでは？ ※1573年～1889年の316年の間に183回の洪水記録あり（※国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川 事務所ホームページより）
今	○区の中でも高低差があるので、床下浸水だったところと床上浸水だったところがある。低いところに親が手伝いに行っていた。28水の経験からか、昔からある大きな家は石を積んで床を高くしている。 ○救援物資として学生服をもらった。 ○教会は集落の中で、少し高くなっているため、水は入らなかった？ ○彼坪に親戚がいる人が多かった。彼坪のほうが低いので、舟で食糧を持って行った。
鶴木	○お宮と1軒以外はみんな水に浸かった。4日間くらい水に浸かっていた。 ○まだ新品で、誰も乗っていない舟が流れてきた。後日、持ち主がとりにきた。 ○38水もひどかった。宝満川が決壊し、流された家が道の真ん中に座っていた。牛や豚、人間の死体も流れてきた。 ○水が上がってきたので、飼っていたブタをドラム缶のうえに乗せたら暴れて、ひっくり返った。
下高橋	○家の1階は浸水。家に舟が入ってきていた。2階で生活した。1番困ったのはトイレ。柱にロープを結びつけ、それにつかまり、外に尻を向けて用をたした。 ○味噌もクソも一緒の状態。 ○中に牛がいる状態で牛小屋が丸ごと流れてきた。 ○田植えの後だったので、苗が全部なくなった。諫早から苗をもらい、共同の田んぼを作って、その年はかなり豊作になった。諫早が台風の被害を受けたときには、こちらから苗を分けた。 ○当時、下高橋に農協があった。そこも浸水していたが、バールでドアが開けられ、中にあった食糧が全くなっていた。 ○日田あたりから材木がたくさん流れてきた。いい材木なのでとっていたが、1つ1つに番号がつけてあり、林業組合が回収にきた。 ○自衛隊からの物資に下駄があり、それをもらえたことが嬉しかった。 ○テレビもない時代。情報がなかった。 ○自宅の庭が浸水し、庭を泳いだ。 ○柳の木に蛇や蝮が引っかかっていた。 ○古飯まで舟で行き、石垣にいた蝮をしょうけいばいにとってきて、開いて干した。 ○宮の陣あたりで筑後川が溢れそうになったとき、南側が氾濫すると久留米市内が被害にあうため、田んぼの多い北側きつたから水が流れてきたようだ。 ○ヤナギムシやイナゴを食べていた。
その他	○令和元年7月20日の参議院選挙ときは、投票所になっている南部コミュニティーセンターの周辺が膝くらいまで水で浸かっていた。 →322バイパスができれば、避難所を移しては？ ○中央公民館が避難所になっているが、下高橋はどの方向も道路が冠水するので、避難所に行けない。家の2階にいるのが一番安全。 ○大刀洗は山がないから土砂崩れがない。地震や津波の心配もないので住みやすいところ。 ○今まで家が建っていなかったところは低いところ（下高橋～彼坪）だが、そこに家が建ちだしている。